JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、
安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。
JR北海道公式YouTubeでもさまざまな取り組みを紹介しております。→

未来へつなぐ

Vol. 178

文／本間 吾里砂

函館線大沼駅構内の脱線事故から十一年。九月十九日を「保線安全の日」と定め、再発防止への意思を継承するための研修会を道内十一カ所で実施

八三〇名が参加し 安全の重要性を再確認

二〇二三年九月十九日、函館線大沼駅構内で発生した貨物列車脱線事故を皮切りに、定めたルールに反した補修工事、検査データの書き換えなど、鉄道の安全を根底から揺るがすような事態が相次いで発覚しました。これにより、お客様の信頼を大きく損なうことになったのは言うまでもありません。JR北海道では、その反省に立ち、脱線事故が起きた日を「保線安全の日」として制定。保線社員が一堂に会するこの日に「安全」について振り返り、コンプライアンス意識の醸成を図る取り組みを毎年継続して行っています。

あいさつを行う島村常務

七月一日現在、対象となる保線系統社員は約七〇〇名。そのうち、脱線事故以降に入社した社員は約四〇〇名と全体の六割に迫る人数となっています。道内十一の会場で実施した研修会には、グループ会社の社員を含め、八三〇名が参加。旭川保線所には綿貫社長、釧路保線所には島田会長、札幌保線所には島村常務ほか、会社幹部も各保線所に出向き、改めて安全の重要性をアピールしました。

事故の再発防止を徹底し「安全の再生」を実現

研修会では、午前中に共通プログラム、午後に各所のオリジナルプログラムを実施。各所とも保線所長の挨拶に始まり、大沼駅構内貨物列車脱線事故DVD視聴、会社幹部によるメッセージの発信、グループディスカッション及び意見交換、中期経営計画（保線版）の概要説明などが行われました。グループディスカッション及び意見交換は、安全に向けて保線技術者としてのあるべき姿や行動を追求することで、一人ひとりが仕事への誇りと自覚を再認識し、脱線事故等の風化防止につなげることを最大の目的としています。

トラックマスターでレールの歪みを測定

また、午後からの各所オリジナルプログラムでは、保線所と管理室の社員が集まる貴重な機会とあって、異常時取り扱い訓練、体験談の発表など、普段とは違う教育訓練を行うところが数多く見受けられました。

JR北海道では、すべての判断基準、行動基準の中心に安全を据え、「JR北海道 安全の再生」に取り組んでいます。「安全の再生」については、検討案を全社員に説明し、寄せられた約六一〇〇件の意見を反映して策定。それだけに、現場の経験が生かされ、保線業務に携わる社員にとってはお客様と自分自身の命を守る重要な指針ともなっています。今後も事故等の再発防止への意思を風化させることなく、会社を挙げて安全に関する取り組みに力を入れていきます。